

職場体験 感想文コンクール2024

タイトル	命を守る仕事	事務局	116
学校名	酒田市立第一中学校	氏名	堀 優衣

私は動物が好きだ。だから、動物に関係する仕事に就きたいと考えていた。昨年、私は獣医師の探究活動グループで活動をしていた。だが今年、私は愛玩動物看護師のグループで活動していた。自分には獣医師は向いていないと思ったからだ。だからせめて、獣医師のサポートができるようになりたいと思い、愛玩動物看護師について探究することを決めた。このグループでは、動物の診察ができるようになるために、手作りの練習キッドを使った注射の練習、包帯での応急処置の練習、動物の体の構造を理解できるように、体の構造調べ、内臓の模型作り、自分たちの今の実力を知るため、国家試験の過去問を解くなど、様々な活動に取り組み、それをプレゼンするため、スライドを作成した。その中で、調べてもわからなかったことや、失敗してしまって上手くできなかったことが多くあった。そこで、実際に、獣医師や愛玩動物看護師の方にお話を聞いてもらい、感想やアドバイス、質問を聞いてもらうことにした。

まず私達は、「山形県獣医師会」から、二人の先生にお越しいただいた。獣医師会とは、獣医学術、技術の振興・普及並びに獣医事、獣医療等の向上を図るとともに、畜産物の安全性確保、公共衛生の向上、動物に関する保健衛生及び愛護精神の向上などを行い、社会に貢献することを目的とした団体のことだ。お二人は、私達に資料を持ってきてくださった。わかりやすく面白さを含めた説明と一緒に、私達に資料を見せながらお話してくださった。私は、実際に働いている人は、こういうところから中学生とは違うんだなと感じていた。次に、私達が発表する番になった。私達は、愛玩動物看護師とはどんな職業か、どんなことができるのか、実際にやってみたこと、感じたこと、まとめ、先生方への質問を書いたプレゼンをした。先生方は真剣に私達の発表を聞いてくださっていた。発表が終わった後、先生方は私達の発表を「よくできている」と褒めてくださった。とても緊張していたので、それがとても嬉しかった。次に、私達の質問に答えていただく時間になった。まず私達は、「私達でもできる注射の練習の仕方がありますか?」とお聞きした。注射の練習をしようとしたとき、キッドの部品が硬すぎて、注射を模したスポイトが刺さらなかったのだ。先生方には、「部品をもっと柔らかいもので代用するといい」とアドバイスをいただいた。続けて先生は、「実際の動物の血管は動くので、難易度は格別に上がる」ということを教えてくださいました。私達はそれを知らなかったで、驚くと同時に、新しいことを知れて、とても嬉しかった。次に私達は、「愛玩動物看護師になるために、今からできることはありますか?」と質問した。先生方は、「勉強と、動物をずっと好きでいること」と答えてくださった。「勉強をすること」が大事なのは自

分でもわかっていたが、「動物を好きでいること」が大事という考えが私の中にはなくて、はっとしていた。次に、「なぜ血管に注射を打ってはいけないのですか?」とお聞きした。すると、先生は、「これは、場合による」と答えてくださった。また、「筋肉注射を血管に打つと命に関わる」ということも教えてくださった。勘違いをしていたようだし、また新しいことを教えていただいて、良かったと感じた。最後に、「なぜ筋肉の多いところに注射を打たなければならないのですか?」と質問をした。すると、思ってもいなかった答えが返ってきた。「それは間違った認識だよ」と先生方がおっしゃったのだ。私達は「え?」となりながら先生のお話を聞いた。正しくは、注射は肘と足首に打つということを教えて頂いた。私は、私達の間違った認識のまま他の人にプレゼンする前に気づけて良かったという安心と、本物の獣医師さんの知識の深さに驚かされていた。また、もう一つ新しいことを知れて、嬉しかった。

先生方との話が終わり、先生方がお帰りになった後、私達はプレゼンを修正した。また、教えてもらったことを書き足して、次の発表に向けた準備を進めていった。

別の日、私達は「仙台ECO動物海洋専門学校」教授の栗津邦彦先生とリモートを繋ぎ、作成し直したスライド、新しくできた疑問を聞いていただくことにした。スライドの発表後、先生は「よくできている発表だね」とおっしゃってくださり、質問にも丁寧に答えてくださった。私達はまず、「なぜ猫は2.5mの高さから落ちて平気なのですか?」と聞いた。先生は、「平衡感覚がよく、着地のとき、必ず足からつくから」と教えてくださった。とてもわかりやすい説明で、すぐに納得できた。私もこんな風になりたいと思っていた。次に、「大学・専門学校はどう選べばいいのですか?」と聞いた。先生は、「動物病院で働きたいのなら3年制の専門学校、動物園や水族館で働きたいなら4年制の大学に通うとよい」と答えてくださった。正直、大学のことまで詳しく考えていなかったもので、視野を広げることができて、質問して良かったなと感じていた。

今回の学習を通して、私は今まで知らなかったことをたくさん知ることができたし、実際に自分たちでやってみることで、理解を深めたり疑問を見つけてみたり、有意義な活動にすることができた。また、実際に働いている人とお話をして感想やアドバイス、質問に答えて頂いたり、活動する上で、仲間と協力したり意見を出し合ったり、疑問を見つけてみたりして、将来、社会に出たうえで必要な力も鍛えることができたと思う。沢山の人が、仲間に協力してもらってできたこの活動が無駄にしないよう、これから、自分から進んで活動に貢献できるようにしていきたい。